

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 6 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03687

研究課題名（和文）多重的社会問題の分析と解決を日本から国際発信する総合研究

研究課題名（英文）Comprehensive studies on analysis and solution of multi-social problems

研究代表者

赤川 学（Akagawa, Manabu）

東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・教授

研究者番号：10273062

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,800,000円

研究成果の概要（和文）：2020年3月、英語論文9本からなる成果報告書『多重的社会問題の分析と解決を日本から国際発信する総合研究』（赤川学編）を印刷・刊行した。多重的社会問題のテーマは、少子化、喫煙、トラウマ、薬害、精神疾患、地方移住、親子関係、社会人カテゴリー、社会問題に関する教育など多岐に亘っている。

分析の手法は、新聞記事や国会議事録をもとにした、言説や語りの内容が変化するさまや要因を探求する歴史的な分析と、インタビューにもとづいて、ある現実やストーリーが生み出され、共有されていくさまを論じるフィールドワーク的な分析が併用されている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

構築主義アプローチの強みは、ミクロな相互行為場面における問題構築と、全体社会におけるマクロな問題構築とその歴史の変容を、首尾一貫した分析手法によって解明することにある。それは、問題構築のレトリックとクレーム申し立て活動の連鎖に着目することで、実際の問題解決に取り組む当事者に対して、多大な示唆を与える本研究では、アメリカ社会問題学会や世界社会学会議、英・米社会学会など国際的な学会で、英語で集中的にその成果を発信し、「日本発の社会問題研究」のプレゼンスを大きく高めることに貢献した。言語障壁を越えて、日本の人文社会学的研究の国際的プレゼンスを高めるために一定の役割を果たした。

研究成果の概要（英文）：We published nine English-written papers based on social constructionist approach on March, 2020. A wide range of topics such as low birthrates, “Kinen” (ban on smoking), trauma, drug-induced sufferings, mental illness, rural migration, child-parent relationships “SHAKAIJIN” category, and teaching social constructionism, was included in the papers. The constructionist analysis was based on two methods.

One is a historical approach which, based on newspapers and/or the Diet records, investigates how and why claimmaking activities or discourses on social problems were constructed and transformed. The other is an interactive approach, based on interviews and observations, which observes how a certain types of reality and narratives were constructed and shared among people.

研究分野：社会学

キーワード：構築主義 社会問題 国際発信

1. 研究開始当初の背景

現在、社会問題の研究は、社会学全体の研究領域とほぼ一致する広がりをもつ。その研究領域は貧困、社会的不平等、人種、エスニシティ、ジェンダー、セクシュアリティ、高齢化、教育、メディア、家族、労働、経済、犯罪、アルコール・薬物依存、健康、環境、科学技術、都市化、戦争、テロリズムと多岐に渡る。また今日、社会問題は複数の問題が重なりあう形で多重化し、さらに国民国家の単位を越えてグローバル化する(例:逸脱、医療、教育、家族問題など)。他方で、地方分権・地域活性化(地方創生)といった観点を含めてローカルな現場知に根ざした解決が求められる(例:少子化、コミュニティ問題)。しかし個々の研究分野が細分化・タコソボ化することにより、専門を超えた研究者間の交流は少なく、社会問題の構築・変容・解決・再構築に至るプロセスを統一的に理解する理論的枠組みは、いまだ形成されていない。

このような背景のもと申請者らは、社会問題を社会の「状態」というよりは、社会問題が存在すると主張する人びとの「活動」と定義し、その活動の発生・性質・持続について説明する「社会問題の構築主義」の立場を自覚的に選択し、問題構築のプロセスを首尾一貫した方法で分析する社会学的方法として洗練させてきた。社会問題の構築主義は1970年代、日系二世の米国人である J. I. Kitsuse, M. Spector, J. Best, J. Gubruim, J. A. Holstein らによって提唱され、米国を中心に世界的に定着した。これを1980年代以降、日本に紹介し、その調査方法論を総合化・標準化するために多大な理論的貢献を行なったのが、本プロジェクトの研究分担者である中河伸俊である。また研究代表者赤川学も、1990年代から性に関する歴史的な言説の分析に構築主義の方法を応用する先駆的な業績を産み出し(『セクシュアリティの歴史社会学』勁草書房、1999など)、2000年代以降、J. Best が提唱する「社会問題の自然史モデル」を活用しながら、少子化や人口減少などの問題構築プロセスに現れる言説や統計を批判的に検討し、人口減少を前提とする社会制度の必要性を強調してきた。

さらに中河が研究代表者となり、赤川が研究分担者の1人となった基盤研究(C)「構築主義的な質的調査法の標準化と多面的開発のための共同研究」(平成22~24年度)では、構築主義的手法に則る中堅・若手研究者を結集し、個別の専門分野を超えた交流を行う研究グループを構築した。そして6回に及ぶ公開研究会を開催し、その成果を『方法としての構築主義』(勁草書房、2013)として公刊した。特に申請者らは、日本の犯罪(覚醒剤、少年非行)、逸脱(登校拒否、ひきこもり、喫煙)、精神医療、家族(少子化、夫婦別姓、家族支援)、コミュニティ政策などの領域における、ローカルで歴史的な問題構築の特性を明らかにしてきた。それを受けて本研究では、以前からの研究課題と研究グループを発展的に継承しつつ、グローバルかつローカルに展開する多重的社会問題のありようを整理し、その問題解決の一端を担う研究成果を、国際学会などで、主として英語を通して集中的に発信することを重視する。それは「課題先進国」としての日本というローカルな現実から出発して、そのユニバーサルな価値をグローバルに発信する構築主義であり、いわば「日本発の社会問題研究」といべき学術的・社会的価値を有している。

2. 研究の目的

本研究は、社会問題を「状態」ではなく人々の「活動」と定義する社会問題の構築主義を、ミクロな相互行為からマクロな社会的文脈までを統合的に把握する質的調査法として洗練し、グローバルかつローカルに展開する多重的社会問題を分析し、その問題解決に寄与しうる研究成果を、英語で、国際的に発信することを目的とした。

現在、社会問題の研究は、社会学全体の広がりとはほぼ一致する広範な研究領域を有するが、申請者らは、社会問題の構築・変容・解決・再構築のプロセスを統一的に分析する社会学的方法として「社会問題の構築主義」にコミットしつつ、家族、少子化、コミュニティ、人口減少、医療化、犯罪化などを重点課題としてとりあげてきた。「課題先進国」日本というローカルな現実から出発して、そのユニバーサルな価値をグローバルに発信する「日本発の社会問題研究」を発展・展開させることが、最大の研究目的であった。

3. 研究の方法

研究代表者、研究分担者、連携研究者全員が一堂に会するインテンシブな研究会を各年度に1~2回開催した。また構築主義の理論的主導者であり、グローバルな構築主義を先導するジョエル・ベスト氏を招き、講演会ならびに研究会を行い、社会問題研究の国際発信に関する示唆を得た。

各年度にわたり研究分担者は、個別の事例研究やフィールド調査、資料収集を通して、構築主義に基づく分析を展開するとともに、その精緻化・統合を試みた。まずは日本語で書かれた既存業績を英語に翻訳・再構成して、国際学会で発表できる環境を整えた。さらに国際学会で報告した英語報告を論文として執筆し、共同研究にフィードバックさせる方法を用いた。

4. 研究成果

2020年3月、英語論文9本からなる成果報告書『多重的社会問題の分析と解決を日本から国際発信する総合研究』(赤川学編)を印刷・刊行した。多重的社会問題のテーマは、少子化、喫煙、トラウマ、薬害、精神疾患、地方移住、親子関係、社会人カテゴリー、社会問題に関する教育など多岐に亘る。手短にその概要を報告する。分析の手法は、新聞記事や国会議事録をもとに、言説や語りの内容が変化するさまや要因を探求する歴史的な分析と、インタビューにもとづいて、ある現実やストーリーが生み出され、共有されていくさまを論じるフィールドワーク的な分析が併用されている。

まず少子化問題について、研究代表者・赤川学は、ジェエル・ベストが開発した社会問題の自然史モデルに基づいて、1990年代以降の少子化問題について分析した。特に自然史モデルをミシェル・フーコーの言説分析と関連付けることによって、どのような政策が排除されたり、採用されたりするかを分析した。少子化問題は官製社会問題であり、人口問題の専門家は少子化対策として仕事と育児の両立困難、ワークライフバランス、男女共同参画を強調したが、それゆえに若者がなぜ結婚しないのかという問題が等閑視されてきたことが明らかとなった。また、官僚や政治家やフェミニストが社会問題の定義権を専有することで、それ以外の示唆が排除される傾向があったこと、これもまた統治性権力の一環であったことを指摘した。

禁煙問題については、研究分担者・苜米地伸は、新聞記事の検索に基づいて、「禁煙」という概念の使用が経年的に変化してきたことを明らかにした。「禁煙」は、個人的な喫煙停止を意味するものから、公共空間における喫煙禁止へと重点を移していった。そのことの言説的效果を問うた論文である。

トラウマ問題については、研究分担者・佐藤雅浩は、過去25年間の日本におけるPTSD概念の普及プロセスを分析した。PTSDは1995年の阪神大震災をきっかけに普及したとされているが、実際には1990年前後のノンフィクション小説やテレビドラマにおいて児童虐待に関する心理学的言説のもとで公的関心の対象となっていたこと、さらに1990年代以降は大規模災害、無差別殺人、自動車事故やストーカーなどの広範な事件と関連付けられるようになったことを明らかにした。

薬害問題については、研究分担者・佐藤哲彦は、「薬害」という概念の歴史的変化を言説分析することで、「薬害」という概念が被害者の連帯を作り出すのに貢献したこと、薬害に言及することで「因果レポートリー」「責任レポートリー」「構造レポートリー」などの言説が生み出されたことを明らかにした。

精神疾患については、研究分担者・櫛原克哉は、精神疾患概念がメンタルヘルス患者にもたらす影響について、インタビュー調査をもとに検討している。精神病は社会的に構築されると仮定することが逆に、真の「深刻な」精神病の存在を患者に想起させ、「真の」診断と治療を求めることにつながることを指摘している。

社会人というカテゴリーについては、研究分担者・山本勲は、「社会人」というカテゴリーが人間の資格に関連するカテゴリーであり、社会人として能力を獲得することで「社会の一員」となるという含意を強く有するがゆえに、社会人カテゴリーからの排除が深刻な排除となりうることを鋭く指摘している。

以上が社会問題に関する語りや言説の歴史的な分析である。以下はインタビューにおける現実の構築を論じるものである。

地方移住については、研究分担者・木戸功が、移住当事者の13名ライフコースの語りを聞き取ることによって、インタビューする調査者が対象者から示唆や影響を受けて、自らの理論図式について反省するプロセス詳細に検討している。

親子関係については、研究分担者・永田夏来が、中学生とその親の「仲の良さ」という語りの特徴を13名の中学生のインタビューをもとに検討している。親は子供と会話するのに適した環境を作ろうと苦心しており、特に両親と子供が多忙で会話時間がない環境では、子供の興味を引くような内容を選ぶことで関係を維持していることが明らかにされた。

社会問題教育については、研究分担者・石島健太郎が、社会構築主義を学部生に教育することがもたらすメリットとデメリットについて論じている。社会問題に関する口頭報告は、試験前後だけ勉強する受講者の数を減らすとともに、受講生の集中力を増大させる。社会問題について興味ある話題を選ぶことでデータの収集や分析を楽しむようになり、盗作も防げる。さらに構築主義の視点を学ぶことで他の分野にも興味を有するようになることが指摘されている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計23件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 赤川学 | 4. 巻 24 |
| 2. 論文標題 ソーシャル・キャピタルは川崎市地域包括ケアシステムの構築に役立つか？ | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 死生学・応用倫理研究 | 6. 最初と最後の頁 35-51 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 金政祐司・荒井崇史・島田貴仁・石田仁・山本功 | 4. 巻 89(2) |
| 2. 論文標題 親密な関係破壊後のストーカー的行為のリスク要因に関する尺度作成とその予測 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 心理学研究（公益社団法人日本心理学会） | 6. 最初と最後の頁 160-170 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 山本功 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 『犯罪に対する不安感等に関する調査研究』 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 第6回調査報告書 | 6. 最初と最後の頁 61-77 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 苔米地伸 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 『生きがい尺度』を用いた分析 - 『従業員向け調査（60歳以上）』票と『企業向け調査』票の傾向を把握する - | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 工作機器製造業高齢者雇用推進委員会『平成30年度工作機器製造業高齢者雇用推進事業報告書』 | 6. 最初と最後の頁 107-121 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 苔米地伸 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 社会学の観点からの考察 - 社会学から小学校歴史の授業を考える - | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 特別開発研究プロジェクト『社会科における実践的で学際的な教科内容構成学の構想試案報告書』 | 6. 最初と最後の頁 81-85 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 石島健太郎 | 4. 巻 13 |
| 2. 論文標題 介助者を手足とみなすとはいかなることか??70年代青い芝の会における「手足」の意味の変転 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 『障害学研究』 | 6. 最初と最後の頁 169-194 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------|
| 1. 著者名 中河伸俊 | 4. 巻 21 |
| 2. 論文標題 アーヴィング・ゴフマンと社会調査 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 『社会と調査』 | 6. 最初と最後の頁 105 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------|
| 1. 著者名 佐藤雅浩 | 4. 巻 54(1) |
| 2. 論文標題 The diffusion process of the concept of trauma in contemporary Japan, 1990s-2000s | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 埼玉大学紀要 (教養学部) | 6. 最初と最後の頁 1-9 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|--------------------|
| 1. 著者名 赤川学 | 4. 巻 11号 |
| 2. 論文標題 構築された性から構築する性へ ジェフリー・ウィークスの理論的変容を通して | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 現代社会学理論研究 | 6. 最初と最後の頁 4-13 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 赤川学 | 4. 巻 68巻1号 |
| 2. 論文標題 社会問題の歴史社会学をめざして | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 社会学評論 | 6. 最初と最後の頁 118-133 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 赤川学 | 4. 巻 40巻3号 |
| 2. 論文標題 少子化問題における計画のゆくえ | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 計画行政 | 6. 最初と最後の頁 9-14 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 赤川学 | 4. 巻 40巻3号 |
| 2. 論文標題 承認問題としてのセクシュアリティ | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 青少年問題 | 6. 最初と最後の頁 9-14 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 佐藤哲彦 | 4. 巻 6月6日号 |
| 2. 論文標題 カナダで嗜好品の大麻合法化へ 北米が大麻産業の集積地に」(エコノミスト・レポート) | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 週刊エコノミスト | 6. 最初と最後の頁 92-94 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 苔米地伸 | 4. 巻 1号 |
| 2. 論文標題 フルードパワー産業における企業側の高齢者雇用への考えと60歳以上従業員の『生きがい』感との関係 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 フルードパワー産業高齢者雇用推進委員会『平成29年度フルードパワー産業高齢者雇用推進事業報告書』 | 6. 最初と最後の頁 14-27 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 苔米地伸 | 4. 巻 1号 |
| 2. 論文標題 『公害』という社会科教材と社会学 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 社会科における実践的で学際的な教科内容構成学の構想試案 - 教科専門・教科教育・附属学校教員の連携モデルの開発 | 6. 最初と最後の頁 12-14 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 木戸功・中河伸俊 | 4. 巻 269 |
| 2. 論文標題 特集『社会学と構築主義の現在』によせて | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 社会学評論 | 6. 最初と最後の頁 17-24 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|--------------------|
| 1. 著者名 中河伸俊 | 4. 巻 20号 |
| 2. 論文標題 談話標識としての笑いと『お笑い』 フレーム分析実用のための試行的検討 - | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 同志社社会学研究 | 6. 最初と最後の頁 1-17 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 山本功・島田貴仁 | 4. 巻 41 |
| 2. 論文標題 地域防犯事業が体感治安と犯罪不安に及ぼす効果の研究 - 千葉県コンピニ防犯ボックスモデル事業を事例として - | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 犯罪社会学研究 (日本犯罪学会) | 6. 最初と最後の頁 80-97 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 山本功 | 4. 巻 12 |
| 2. 論文標題 都道府県別の居住地域体感治安と犯罪不安の分析 - 人口あたり刑法犯認知件数の効果に注目して - | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 『政策と調査』 (埼玉大学社会調査センター) | 6. 最初と最後の頁 53-62 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 木戸功 | 4. 巻 100号 |
| 2. 論文標題 移住とライフコース: 動機を語ることを通したライフコースの構築 | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 『人文学会紀要』 (札幌学院大学) | 6. 最初と最後の頁 63-81 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 梅田直美 | 4. 巻 第27巻第1号 |
| 2. 論文標題 戦後日本における『母子密着』言説の形成過程の一局面 - 団地家族に関する新聞記事の分析を通じて - | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 『奈良県立大学研究季報』 | 6. 最初と最後の頁 1-39 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 梅田直美 | 4. 巻 第665号 |
| 2. 論文標題 (特集 孤立化する社会) 児童虐待と『母親の孤立』の問題化 - 歴史的視点から | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 『青少年問題』 | 6. 最初と最後の頁 18-25 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 木戸功 | 4. 巻 28(2) |
| 2. 論文標題 NFRJと質的研究：質的データの収集と分析および公開に向けて | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 『家族社会学研究』 | 6. 最初と最後の頁 218-223 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計18件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 3件)

| |
|---|
| 1. 発表者名 山本功 |
| 2. 発表標題 犯罪社会学における社会学1.5 - 犯罪統計・犯罪不安・体感治安 |
| 3. 学会等名 第91回日本社会学会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 石島健太郎 |
| 2. 発表標題 治る / 治らない未来のためにある現在 ALS 患者の語りから |
| 3. 学会等名 第91回 日本社会学会大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Kentaro, ISHIJIMA |
| 2. 発表標題 Wish to be Normal: ALS/MND Patients' Strategies to Advocate Themselves |
| 3. 学会等名 XIX ISA World Congress of Sociology |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Akihiko Sato |
| 2. 発表標題 Discourse Analysis of Drug-induced Sufferings in Japan |
| 3. 学会等名 XIX ISA World Congress of Sociology, Joint Session of RC15 and RC25 "Languages of Victims: Toward Advocating Contemporary Social Sufferings" |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 木戸功・永井暁子 |
| 2. 発表標題 NFRJ18プリテストによる成果とNFRJ質的調査グループの活動 |
| 3. 学会等名 日本家族社会学会大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名 赤川学 |
| 2. 発表標題 日本のセクシュアリティを振り返る |
| 3. 学会等名 日本「性とところ」関連問題学会（招待講演） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Akagawa, Manabu |
| 2. 発表標題 A natural History of Low Birthrate Issues in Japan since 1990s |
| 3. 学会等名 Society for the Study of Social Problems（国際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Isao Kido |
| 2. 発表標題 Life Course Construction through Talking about Motivation: Rural Migration and Adaptation |
| 3. 学会等名 Society for the Study of Social Problems（国際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Shin Tomabechi |
| 2. 発表標題 The Meaning of 'Kin-en' |
| 3. 学会等名 Society for the Study of Social Problems（国際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 中河伸俊 |
| 2. 発表標題 役割アイデンティティとパーソンフッドの達成 ゴフマンに拠って“自己の構築”アプローチを再構成する |
| 3. 学会等名 日本社会学会 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 佐藤雅浩 |
| 2. 発表標題 ヒステリーと神経衰弱概念の普及に医療専門家が果たした役割について |
| 3. 学会等名 日本社会学会 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 佐藤哲彦 |
| 2. 発表標題 悪から害へ ハーム・リダクションと逸脱処遇の現代の変容 |
| 3. 学会等名 日本社会学会 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 島田貴仁・山本功・金政祐司・荒井崇史・石田仁 |
| 2. 発表標題 ストーカー事案の被害実態等に関する調査研究(1)：被害のリスク要因と被害者の対処行動 |
| 3. 学会等名 日本犯罪社会学会 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 山本功・島田貴仁・金政祐司・荒井崇史・石田仁 |
| 2. 発表標題 ストーリー事案の被害実態等に関する調査研究(2)：被害相談意向の分析 |
| 3. 学会等名 日本犯罪社会学会 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 木戸功 |
| 2. 発表標題 ライフコースの構築と動機を語ること：移住者へのインタビューを通して |
| 3. 学会等名 家族問題研究学会大会 |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|----------------------------|
| 1. 発表者名 赤川学 |
| 2. 発表標題 構築された性から構築する性へ |
| 3. 学会等名 日本社会学理論学会(招待講演) |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 山本功 |
| 2. 発表標題 犯罪認知件数と体感治安・犯罪不安 - 47都道府県の分析 - |
| 3. 学会等名 日本行動計量学会第44回大会 |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 赤川学 |
| 2. 発表標題 「善い社会」イメージの多様性とその規定因: QCAによる分析 |
| 3. 学会等名 第89回日本社会学会大会(福岡県福岡市) |
| 4. 発表年 2016年 |

〔図書〕 計10件

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 赤川学 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 吉川弘文館 | 5. 総ページ数 349-363 |
| 3. 書名 清内路の地域力を比較する, 吉田伸之編『山里清内路の社会構造』 | |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 永田夏来 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 イーストプレス | 5. 総ページ数 203-214 |
| 3. 書名 「解説 個人的性愛活動のコンテンツ化」樫畑敦子『ふつうの非婚出産 シングルマザー、新しい「かぞく」を生きる』 | |

| | |
|--------------------|-----------------|
| 1. 著者名 赤川学 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 弘文堂 | 5. 総ページ数 176 |
| 3. 書名 少子化問題の社会学 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 木戸功 | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 ミネルヴァ書房 | 5. 総ページ数 211 |
| 3. 書名 「家族社会学と質的研究」藤崎宏子・池岡義孝編著2017『現代日本の家族社会学を問うー多様化のなかの対話』 | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 佐藤哲彦 | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 ミネルヴァ書房 | 5. 総ページ数 287 |
| 3. 書名 「犯罪と逸脱」, 盛山和夫・金明秀・佐藤哲彦・難波功士編『社会学入門』 | |

| | |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 著者名 赤川学 | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 筑摩書房 | 5. 総ページ数 196 |
| 3. 書名 これが答えだ！少子化問題 | |

| | |
|--|--------------------------|
| 1. 著者名 山本功 | 4. 発行年 2016年 |
| 2. 出版社 学文社 | 5. 総ページ数 443(285-300) |
| 3. 書名 「地域社会とのつながりと自殺許容」『共生社会の創出をめざして』（淑徳大学創立50周年記念論集刊行委員会編） | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 林尚之・梅田直美 | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 大阪公立大学共同出版会 | 5. 総ページ数 82 |
| 3. 書名 (OMUPブックレットNo.59) 自由と人権 - 社会問題の歴史からみる | |

| | |
|---|------------------------|
| 1. 著者名 苔米地伸 | 4. 発行年 2016年 |
| 2. 出版社 金属工作機械製造業高齢者雇用推進委員会 | 5. 総ページ数 292(14-24) |
| 3. 書名 「企業の高齢者雇用への考えと60歳以上従業員の『生きがい』感との関係」『平成27年度金属工作機械製造業高齢者雇用推進事業報告書』 | |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 山本功 | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 日工組社会安全研究財団 | 5. 総ページ数 416(87-106) |
| 3. 書名 「一般市民のストーカーに関する知識と相談意向」『ストーカー事案の被害実態等に関する調査研究報告書』 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|---------------------------------------|----|
| 研究分担者 | 山本 功 (Yamamoto Isao) (10337694) | 淑徳大学・コミュニティ政策学部・教授 (32501) | |
| 研究分担者 | 佐藤 哲彦 (Sato Akihiko) (20295116) | 関西学院大学・社会学部・教授 (34504) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|-------------------------------------|----|
| 研究分担者 | 永田 夏来 (Nagata Natsuki) (40613039) | 兵庫教育大学・学校教育研究科・講師 (14503) | |
| 研究分担者 | 佐藤 雅浩 (Sato Masahiro) (50708328) | 埼玉大学・人文社会科学研究科・准教授 (12401) | |
| 研究分担者 | 中河 伸俊 (Nakagawa Nobutoshi) (70164142) | 関西大学・総合情報学部・教授 (34416) | |
| 研究分担者 | 石島 健太郎 (Ishijima Kentaro) (70806364) | 帝京大学・文学部・講師 (32643) | |
| 研究分担者 | 木戸 功 (Kido Isao) (80298182) | 聖心女子大学・現代教養学部・教授 (32631) | |
| 研究分担者 | 苔米地 伸 (Tomabechi Shin) (80466911) | 東京学芸大学・教育学部・教授 (12604) | |
| 研究分担者 | 櫛原 克哉 (Kushihara Katsuya) (00814964) | 東京通信大学・情報マネジメント学部・助教 (32826) | |
| 研究分担者 | 梅田 直美 (Umeda Naomi) (60618875) | 奈良県立大学・地域創造学部・准教授 (24602) | |